

## 工業地域の再生と「豊穡化の経済」 ー場所の記憶、ツーリズム、コミュニティ、エコシステムー

### 【代表者】

小関珠音 大阪市立大学 都市経営研究科 准教授

### 【共同研究者】

藤田和史 和歌山大学 経済学部 准教授

立見淳哉 大阪市立大学 経営学研究科 准教授

### 【研究概要（申請書より抜粋）】

本研究は、H30年度の本研究助成金を活用した共同研究において、研究者間のドメインの近似性と相互交流による付加価値向上の可能性が確認されたことから、継続課題として応募するものである。

本研究が依拠するのは、ボルタンスキ エスケール（Bonltanski et Esquerre, 2017）が近年提起している「豊穡化の経済」という視点である。豊穡化に際して、「場所の記憶」がどのように構築され、さまざまな地域資源が（しばしば、ツーリズムを介して）結びつけられ、地域課題への対処や新たな財・サービスの価値付け活動の創出などにつながるのかを検討する。認知資本主義論や「資本主義の新たな精神」（ボルタンスキ シャペロ, 2013）として議論されてきたように、新たな社会・経済が現れつつあるが、地理的に見ると、関心の中心は創造産業などを惹きつける大都市である。他方、衰退を余儀なくされているが、かつての工業地域の課題や可能性については十分に検討されているとはいえない。近年では、その地における業界を超えた協業と相互依存システム（「エコシステム」）に加え都市のコンテクスト（Nelson, 2014）が、地域企業の 存続・成長に大きな影響を与えることも明らかとなっている。

これらのことに鑑み、2019年度においては、日本国内の地域産業集積（主に工業分野）、及び、繊維産業等のデザイン資源を活用する日本企業の海外進出の分析に焦点を絞り、共同研究を行う。